

# 『内視鏡ファイリングシステム要求仕様書』

2022 年 3 月 23 日

福岡県済生会大牟田病院

## 要件仕様

### 1.1 導入概要

#### 1.1.1 導入システム名称

内視鏡ファイリングシステム ソフトウェア一式

#### 1.1.2 導入の背景および目的

現行システムでの運用が7年を経過し、ソフトウェア及びハードウェアの老朽化が見られるため、システムの更新が必要である。

#### 1.1.3 基本方針

内視鏡検査業務における作業効率化を図れるシステムを評価する。また病院基幹システム側のリプレースの計画もあるため、電子カルテとのインターフェース部分に関しては実績があり、スムーズに内視鏡オーダの連携が可能なシステムを選択する。

- ① 内視鏡検査業務の管理・支援機能
- ② カスタマイズは最小限に抑え、シンプル構造のシステムを選択する。
- ③ 全体最適を心がけ、コストパフォーマンスに優れた情報システムとする。
- ④ システム内データの有効活用を意識した選択をする。
- ⑤ 病院基幹システム（電子カルテ）との連携を意識した、システム整備をする。

#### 1.1.4 内視鏡ファイリングシステムへの要求機能範囲

内視鏡ファイリングシステムに求める主要な要求機能は、次のとおりとする。

##### (1) 内視鏡検査業務の管理・支援機能

- ① 内視鏡検査受付業務
- ② 内視鏡検査依頼管理（伝票入力、オーダ情報受信）
- ③ 検査予約管理
- ④ 内視鏡機器連携
- ⑤ 内視鏡画像管理
- ⑥ 内視鏡レポート入力
- ⑦ 洗浄履歴連携・管理
- ⑧ 内視鏡検査実績の統計
- ⑨ レポート参照機能（電子カルテからの Web 参照等）
- ⑩ 電子カルテオーダーとの連携
- ⑪ データ移行

※基本は既存システムの全データであるが詳細は打合せにて決定

##### (2) 病院基幹システム（電子カルテ）端末とのクライアント共存化 ※1

※1 詳細内容は病院基幹システムベンダーと協議すること。

## 1.2 詳細要件

### 1.2.1 調達範囲

#### (1) 内視鏡ファイリングシステムソフトウェア一式

##### ① 内視鏡ファイリングシステム

(洗浄機との連携に PC が必要な場合は、クライアント PC を準備する)

##### ② 内視鏡レポート入力

##### ③ 内視鏡機器 3 台との連携費用

##### ④ 洗浄機との連携費用

##### ⑤ 通常業務クライアント 7 台分のシステムライセンス

##### ⑥ パッケージで利用するミドルウェアなどを含めること。

##### ⑦ バーコードリーダーを使用する場合、電子カルテで導入する標準的なバーコードリーダー以外でシステム指定の機種がある場合はその機種を含めること。

その他、パソコン以外に必要なハードがある場合、そのハードウェアを調達範囲に含めること。(ラベル印刷など)

##### ⑧ 運用できるまでの導入、設定、調整等の作業と教育

##### ⑨ 基幹システム（電子カルテ）との連携

※1 必要となるサーバー、クライアント、バックアップストレージ等のハードウェアは病院基幹システム（電子カルテ）に含めること。

※2 当院で Microsoft Enterprise CAL Suite を所有しているため、Microsoft Office および Windows CAL 等の関連するライセンスは調達範囲から除く。

### 1.2.2 システム基本要件

#### ① 機能

a. 内視鏡検査業務を行う上で、機能的に不足がないこと。

b. システム内のデータは、市販のソフトウェア（ワープロ、表計算ソフト等）で利用できること。

#### ② 性能

a. クライアント端末のレスポンスタイムは、ピーク時においても病院業務を円滑に遂行するに十分な性能であること。

#### ③ 信頼性

a. システムは院内各部門から入力されたデータをその性質に応じて集中管理するとともに、業務全体通じて十分な整合性が保てること。

b. バックアップ、リカバリの機能を有すること。

c. 障害の局所化、リカバリ、障害部分のみのリスタート等が可能なこと。

#### ④ 保全性

a. 業務の種類・内容によって、各情報に最適なセキュリティをかけることができること。さらに、それぞれの条件下で、権限（検索権、新規入力権、更新修正権等）レベルを分けることができること。

- b. トラブル発生時において、システム停止時間は極力短時間とし、その間に復旧できるサポート体制を有すること。

⑤ 柔軟性

- a. 将来的なシステム対象業務の追加、診療形態の変更に対して、ハードウェア・ソフトウェアの追加・更新ができること。
- b. クライアントのセットアップ方法、マスタ作成方等は病院担当者が実施できるよう指導・支援すること。

⑥ 操作性

- a. ユーザーが素早く操作できるよう、操作性には十分な配慮がなされていること。
- b. 障害時の復旧操作が容易であり、異常時に適切な指示が出せること。

1.2.3 教育に関する事項

- ① 操作で困ることの内容にトレーニングの実施を行なうこと。
- ② 教育時には、今後の教育のベースとなる資料を提供すること。

1.2.4 体制

① 開発サポート体制

- a. 今回導入範囲のシステムについて、十分な導入・開発経験を持つ人材でチームを編成すること。
- b. チームメンバーは、システムが安定稼働するまでの全行程において、入れ替えがないよう配慮すること。やむなき理由により、入れ替えが発生する場合は、病院へ事前報告を行い、十分な引継ぎを行うこと。また、安定稼働後も、病院からの要請に応じて協力援助が可能なこと。
- c. パッケージシステムを利用する場合は、以下の条件を満たす必要がある。
  - パッケージは十分な実績があり、安定稼働が保証されるものであること。
  - パッケージ自体の機能拡張が行われた場合は、当院と協議の上、必要に応じて当院にも適用すること。
- d. システムの仕様は、機能確認時に提示したものを保証すること。
- e. 詳細なシステム別開発導入スケジュールを提示し、病院と協議の上、決定・調整すること。また、経過・進捗状況については、月に1回以上の頻度で、病院へ文書および打合せにて報告すること。
- f. システムの動作テスト（接続、機能、プログラム等）は、病院職員の立ち会いのもとに行い、その評価を受けること。

② 教育体制

システムの導入計画に支障のないよう、以下の教育体制を提供すること。

- a. 教育カリキュラム（内容・日程）を提示し、病院と協議の上、決定・調整すること。対象者・回数・期間については、教育および訓練対象者の習熟度を十分に考慮し、随時調整すること。
- b. 教育および訓練に必要なマニュアル、教材等は、必要部数準備すること。これらは全

て日本語で記載されており、改訂された場合は速やかに対応すること。

- c. システム稼働時に混乱を来さないように、実運用（通常運用および障害時の運用）に則したシステム全体を通じての教育を充分に行うこと。

#### 1.2.5 運用・保守体制

システムの安定稼働に支障のないよう、以下の保守・支援体制を提供すること。

- a. 保守業務として、導入業者側で想定する作業は以下の通りである。
  - 障害復旧
  - ソフトウェア（パッケージ）のバージョンアップ、不具合の修正。
  - 上記の保守作業実施報告書の提出。
- b. システムに障害が発生した場合、迅速に対応すること。現地にて対応が必要な場合、保守要員は迅速に（連絡から現地到着まで速やかに）対応し、修復に必要な措置を取ること。また、速やかに原因を究明し、再発防止および対応策を病院へ文書にて報告すること。
- c. 定期的なシステム連絡会を開催し、システムの運用状況、問題点および改善案の報告を行うこと。
- d. システム運用・開発・管理に関する質問に対して、適切な回答・助言・改善案を提供すること。
- e. 将来的に別のシステムへ置き換えることになった場合、新システム側へ移行するデータの抽出においては、ベンダー側のいかなる制約も認めない。またこの作業は保守の範囲で行い、作業費用が発生しないこと。

### 1.2.6 想定ハードウェア環境

必要な機器は別途調達（電子カルテベンダー）となる。サーバーに関してはレスポンスに支障がないスペックを電子カルテ導入ベンダーと協議し決めること。クライアントは以下のスペック内容で動作すること、電子カルテのクライアントと共存可能なことを前提とする。その他プロダクト稼動に必要なミドルウェアは、本見積りに組み込んで提示すること。

#### (1) 内視鏡ファイリングシステム クライアント端末

クライアント端末の性能を提示する。

OS	: Windows 10 Professional
CPU	: Core™ i3 相当
メモリ	: 8GB
HDD 容量	: 256GB
画面表示機能	: 1920×1080
光学ドライブ	: なし
LAN	: 1.0GB
Office	: Microsoft Office Standard または Professional

### 1.2.7 システム機能の詳細仕様

別紙「内視鏡ファイリングシステム 機能仕様書」を参照。